

「つながらない」権利で 生活と仕事にメリハリを！

みかみ まさよし
三上 昌佳

●NTT労働組合東日本本部 事務局長

少し前の事であるが、自己紹介の資料を作る機会があり、好きな物を問われ「金曜日の5時」と答えた。ウイークデーの仕事からの開放感と週末に向かうワクワク感がたまらなく好きだ。

チャットツールはいまや仕事において無くてはならない必須アイテムとなった。リアルタイムで1対1やグループでの情報交換ができる他、やりとりの履歴も簡単に検索できるので、忘れっぽい私にはピッタリである。時間や場所を選ばずスマホでも簡単にアクセスでき、とても便利だ。

困ったことが起きた。私の手のひらにYouTubeやNetflixなど週末を過ごすための娯楽と、Teamsなど仕事のツールが同居してしまう事に。見なきゃいい話だが、プッシュ通知やアイコンの通知数が増えると脈拍があがる（様な気がする）。上がった脈拍を下げるには、内容を確認するしかない。かくして、貴重な週末のリラックスタイムが奪われる羽目に。業務をこなす時間だけではなく、週末モードに気分を戻す事は難しいというか、しばし、私の頭の中は仕事のことに占有され、週末モードに戻ったと思ったら、たちまち「サザエさん」の放映時間を迎える。

当組織が「労働調査協議会」の協力を得て実施したアンケートでは、組合員の5割が過去1年で勤務時間外に仕事の連絡があったと回答し、そのうち9割は何らかの対応をしている実態が明らかとなった。また、半数が時間外労働を申請（本来は管理者が指示するものであるが）し

ていない。やっかいなのが、上司・同僚もさることながら、取引先も結構な比率に及ぶ。加えて、7割以上が精神的な疲れを感じていると答えている。リモートワークは仕事とプライベートの区切りがあいまいとなることが指摘されているが、週末の貴重なストレス解消機会までも奪われているとしたら、由々しき事態である。

このことについて調べてみると、フランスでは2017年に「つながらない権利」が法律で定められ、労使で話し合い労働協約を締結する事が義務となっている。つながらない権利とは、勤務時間外や休日に企業から送られる電話やメールに対して応答しないことが許される権利である。日本においても厚生労働省の「これからのテレワークでの働き方に関する検討会」において論議されているが、法制化に向けた対応は遅々として進んでいない（ように思われる）。

場所や時間にとらわれない柔軟な働き方。聞こえはいいが、いつでもどこでもチャットツールに束縛される働き方は誰も望んでいない。この点、国レベルでの規制に向けた論議が必要である。そして大事なのが、労働組合がこのことに関与し、組合員をストレスや過重労働から守ること。これまでは職場にいる組合員を、いわゆるサービス残業や過重労働から守るのが、労組の重要な役割の一つであったが、時代の流れに即し、「つながらない権利」も、労働組合が取り組む重要な課題と位置付け、対応していくことが求められる。

さて、今日は金曜日だ。よき週末を過ごしたい。